

令和元年度 指定管理業務 実績評価シート

部課名 福祉部障がい福祉課

施設名	弘前市弥生学園
施設の設置目的	児童福祉法第42条に基づく障害児入所施設として知的障がいのある児童を入所させて、保護するとともに、独立自活に必要な知識技能を与えるため。
所在地	弘前市大字中別所字平山140番地1
指定管理者名	社会福祉法人弘前草右会
指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
1 事業計画の実施状況	<p>運営の基本方針に基づいて年間行事、職員の研修参加など工夫され利用者の生活の質の向上を図るなど支援体制が充実しているため、概ね適正に実施されていることが確認できる。</p>
2 利用者サービス向上のための取組状況	<p>利用者が施設を利用して良かったという満足感が得られるためには、「職員の対応」を一番と考えており、職員体制を充実し、利用者の立場・気持ちになって優しい気配りと細かい気配りで施設運営等を実施している。さらに、サービス向上委員会、人権擁護委員会等を設置し、安全で快適な生活を送るための施設運営の適正化に努めている。</p>
3 利用者ニーズの把握の実施状況	<p>利用者ニーズを把握するため、年1回利用者の保護者を対象としたアンケートを実施し、ニーズの把握に努めている。アンケートは、令和2年2月7日から2月29日に実施。</p>
4 施設の利用状況（利用者数、稼働率など）	<p>令和元年度 令和2年3月 障がい児9人 障がい者24人 合計33人 延入所者数 障がい児115人 障がい者269人 合計384人</p>
5 指定管理業務の収支状況	<p>指定管理料内での施設運営に努めており、継続的に安定したサービスの提供できる体制が整っている。</p>
6 実地調査の結果	<p>施設運営については、良好である。施設管理については、施設及び設備の長寿命化を図るため、計画的な修繕及び備品の更新が課題となる。</p>

7 評価

(1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	B	法令等の遵守、職員の配置・研修、利用者ニーズの把握など、概ね適切に実施できた。	利用者や保護者の意見等を踏まえ、可能な範囲で利用者のサービス向上に努めたい。
施設の管理	B	利用者の安心・安全を最優先に施設管理を行うことができた。	施設の修繕に関しては利用者の安全を最優先に考え、市と協議の上、実施していきたい。
経理の状況	B	帳票等の整備、収支状況等、適切に行われた。	利用者には不便が無いよう配慮しながら、引き続き経費の削減に努めていきたい。
団体の財務状況	B	概ね良好である。	引き続き良好な状態を保ちたい。

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	B	事業計画、運営の基本方針に基づき施設運営は適正に行われている。	障がい児だけでなく、障がい者へのサービス提供の充実が引き続き課題である。
施設の管理	B	保守点検や清掃業務等も確実に実施されており、施設管理は適正に行われている。	施設の長寿命化のため、計画的に施設修繕や備品更新が必要である。
経理の状況	B	帳簿等の整備、経理区分、収支状況等を適正に実施することができている。	施設の維持管理費は、突発的な対応を想定しながら、計画的な支出に努めている。
団体の財務状況	B	指定管理料内での運営に努めており、安定的な経理基盤を有し、適正なものとなっている。	今後も安定した財務状況の維持に努める。

【評価の視点】

評価区分	評価の視点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報の管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの (適正な管理運営に加えて、更なる取組みや成果があると評価できるもの)
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの (軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの)
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準

B	問題がない
C	今後に注意を要する
D	早急な改善を要する